

(7) 近江大橋のPCケーブル損傷 (2010年4月)

補強工事に合わせて橋梁を点検したところ、コンクリートのうき等が確認されたため、詳細調査を実施。主桁PC鋼材に損傷が発見された。

概要	
施設	近江大橋 (橋長1,290m、単純24連ポストテンションT桁と3径間連続ラーメン箱桁)
所在地	滋賀県大津市～草津市
竣工	1974年
損傷発覚日	2010年4月
事象	ポストテンションT桁部においてB活荷重対応を目的とした外ケーブル補強工を実施した。この補強工の足場を利用して橋梁点検を実施したところ、コンクリートのうきが発見されたため、詳細調査を実施した結果、主桁主ケーブルの一部で劣化が進行していた。
原因	橋面防水は施してあるものの機能を果たせず、凍結防止剤を含んだ雨水等が橋面から、グラウトが十分に充填されていないシース内に浸透し、劣化を促進させた。
概要図	<p>近江大橋の一般図 (上) と断面図 (下)</p> <p>雨水浸入の模式図 (左) と上縁定着部の劣化状況 (右)</p> <p>(資料：国土交通省近畿地方整備局研究発表会の資料をもとに作成)  (写真：上：アイ・エス・エス創研、下：国土交通省近畿地方整備局研究発表会)</p>
備考	近年はポストテンションT桁部に本橋のような上縁定着という形式は用いられていない (基本的に桁端定着) が、1993年までは一部の橋梁で採用されていた。
資料等	● 「近江大橋(旧橋)における主桁の調査と補修状況の報告～PC橋に学ぶ～」、国土交通省近畿地方整備局研究発表会、2012年 <a href="http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/happyou/theses/2012/pdf04/23.pdf">http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/happyou/theses/2012/pdf04/23.pdf</a>